



S REPORT サステナブルレポート No.70

北欧の環境教育が 日本にもたらす波及

環境教育

■ 私たちの身の回りに起きている生活の変化

- 廃プラスチックの処理が困難になっている折り、日本でもレジ袋有料化で容器包装の常識が変化。
- 新型コロナウイルス感染拡大によるマスク不足で、布製品のリサイクルなど資源活用が自然発生。
- 環境問題の実感よりも、それによる生活利便性の悪化から意識・行動が変化。

■ 分別



出典：写真AC

■ グリーンカーテン



■ 節水



時代と共に環境教育は大きく変わったのか？

■ 経緯

- 1992年、国連環境開発会議で地球環境の保全と持続可能な開発の方策が話し合われた。
- 会議にて環境教育の重要性が説かれ、デンマークで「エコスクールプログラム」が開発された。
- 2008年、日本国内で取り組みが開始された。
- 現在、59,000校、68の国・地域に広がっている。

■ 「エコスクールプログラム」とは

- 環境学習のためのプログラム。
- 北欧では未就学児が主な対象。日本では小中学校が中心。
- 活動が一定の基準を満たした機関は、「グリーンフラッグ」認証を受ける。

■ 7つのステップ

Step 1 エコスクール委員会をつくる

エコスクール委員会は、児童・生徒が中心となり、全校児童・生徒の意思が反映されるように構成し、教員や保護者、あるいは地域との調整役にもなることが望ましいです。

Step 2 課題を決める

児童・生徒が解決したいと思う身近な課題を探します。できるだけ多くの児童・生徒が参加し、共感できる学校の問題点を探し、そこから取り組みの目標を設定します。

Step 3 計画を立てる

ステップ2で立てた目標を達成するための計画を立てます。課題を解決するために、いつ、どんな活動にどの様に取り組みか、という具体的な内容です。

Step 4 実践と見直し

ステップ3で作成した計画に沿って活動を実践します。活動の成果は、定期的に評価をし、必要があれば見直します。

Step 5 授業との連携

テーマについて多角的に捉えることを目的とし、教科学習で学習の機会を設けます。

Step 6 学校から地域へ広げる

取り組みを学校全体、地域へと広げます。周囲の人と課題を共有し、目標に向けて取り組むことで、学校や地域に一体感を生み出し、学校や地域への愛着を育むことへもつながります。

Step 7 エココード（環境宣言）を決める

取り組みを通じて学んだことや感じたことをもとに、学校全体で約束すること「エココード」を決めて宣言します。エココードは、取り組みに参加した全ての人と共有します。

出典：FEE Japan

国によって具体的な取り組みに差はあるのか

■ 日本（生駒市立生駒南第二小学校）

- 国内では2016年時点で**12校**が取り組み、認証は**3校**。
- 全校生徒アンケートをもとに**高学年のエコ委員会**を中心に活動。
- 学校のごみ削減や地域の川を清掃。
- 休み時間の節水・節電。
- エコ新聞を発行して活動を**地域の人に回覧**。
- 同地域の生駒台小学校では、節電節水の確認やエコ絵画コンテストを実施。



出典：FEE Japan

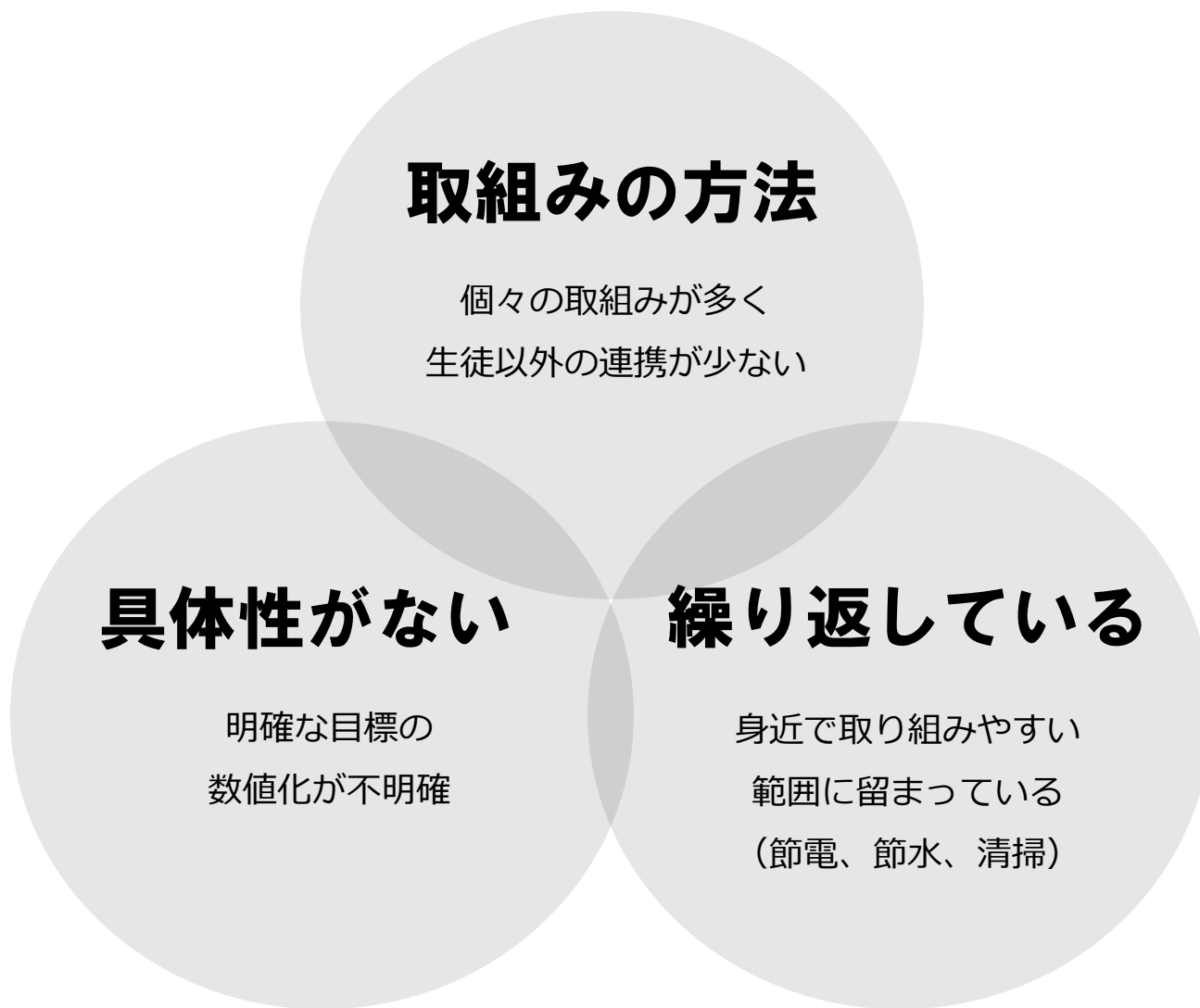
■ スウェーデン（ナッカ市立の学校、保育園から中学校までの機能をもつ）

- スウェーデンでは1,300校以上が認証を受ける。
- ISOに基づいた制度を導入。**事務局がテーマや成果などを管理**。
- **生徒、教師、保護者なども含めた環境委員会**を設け、テーマと具体的な目標の設定。1年の活動後に達成度を評価して事務局に報告。
- 細かな分別、コンポスト、分別されたごみの処理方法を学ぶ。
- ごみ減量で処分費用を年間60万円削減。学校が活動から教育効果以外の**実利**を得て、市の**予算を他の地域事業に**充てることができる。



出典：内田洋行教育研究所

日本の取り組みには、各学校で設ける評価基準はあるのか？



SDGsという明確な目標に対して北欧の評価基準を学ぶ必要がある

参照・引用資料

- 特定非営利活動法人FEE Japan, 「エコスクールについて」, (https://www.feejapan.org/eco-schools/es_about/)
- 特定非営利活動法人FEE Japan, 「7つのステップ」, (https://www.feejapan.org/eco-schools/es_step/)
- 内田洋行教育研究所, 「実践重視の環境教育」, 2005年11月22日, (https://www.manabinoba.com/world_edu/6855.html)

サステナブルレポートに関するお問い合わせ先：

SREPORT 編集部 ☎ 03-5542-5300 ✉ info@sfinter.com

- 本レポートに掲載された内容は作成日における情報に基づくものであり、予告なしに変更される場合があります。
- 本レポートに掲載された情報の正確性・信頼性・完全性・妥当性・適合性について、いかなる表明・保証をするものではなく、一切の責任又は義務を負わないものとします。
- 本レポートの配信に関して閲覧した方が本レポートを利用したこと又は本レポートに依拠したことによる直接・間接の損失や逸失 利益及び損害を含むいかなる結果についても責任を負いません。
- 本レポートに関する知的所有権は株式会社サティスファクトリーに帰属し、許可なく複製、転写、引用等を行うことを禁じます。

Satisfactory



全従業員で
毎週更新中

<https://www.sfinter.com/report/>